

また、この文の持続動詞の“交往”にも留意されたい。この“交往”は“她现在跟欧阳在交往”において「交際をする」という意を表し、[持続]の意味特徴を保持している。従って、“交往”の[持続性]が[非現場進行]の成立に貢献していると考えることができる。

ここで一つ指摘しておきたいことは、“她现在跟欧阳在交往”における“交往”という動詞の出来事地点は明示する必要がないということである。つまり、ここでの“交往”とは、動態的、かつ具体的な特定の行為ではなく、二人の人間が友人より親密に、更に信頼しあえる関係を保持する営みの全過程を指す。従って“交往”が生じる一つ一つの場所には関心が置かれなくなり、“在”が導くべき出来事存在場所、換言すると、“在”の目的語が省略されたと考えられる。故に、“她现在跟欧阳在交往”に内在する意味は「(現在という範囲において)彼女が、ある場所において、彼女が欧陽と交際している」と解しえる。

では“她现在跟欧阳在交往”における“在交往”の部分論理表記してみることにしよう。

(8a) 交際スル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ

有' 【在' [她, ϕ , 交往' (她) & 在' {交往' (她), ϕ }], 現在】

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

アル ～ガ ～トイウ範囲ニ

この論理式は“交往' (她)”が「彼女が交際する」という意味を表し、“在' {交往' (她), ϕ }”が「それ(彼女が交際する)がある場所に存在する」という意味を表し、“在' [她, ϕ , 交往' (她)&在' {交往' (她), ϕ }]”が「彼女が、ある場所において、彼女が交際し、かつそれ(彼女が交際する)がある場所に存在するという様態にある」という意を表している。そして“現在”が加わった式全体は“有' 【在' [她, ϕ , 交往' (她)&在' {交往' (她), ϕ }], 現在】”となり、「彼女がある場所で交際しているが、現在という範囲にある」と読むことになる。

今度は“我们那口子现在每天在吃素食啊”(うちの家内はいま毎日菜食をしています)における“在”について考えてみよう。(9)を見られたい。

(9) 我们那口子现在每天在吃素食啊。(テレビドラマ《岁月》第9話)

“我们那口子现在每天在吃素食啊”の“在”は[非現場進行]であると解釈する。その根拠は二つ存在する。

一つは、“吃素食”という出来事が発話時点において起こっていない、ということである。それはドラマ《岁月》の場面を見るとはっきりと看取できる。いま一つの根拠としては、“現在”と“每天”の生起である。つまり、“現在”という幅のある時間の中で、“吃素食”という出来事が毎日存在するのである。

また、“我们那口子现在每天在吃素食啊”における動詞の“吃”は[持続]の意味特徴を有し、かつ、この“我们那口子现在每天在吃素食啊”には持続動詞の“吃”

を[終息]させる成分が生起していないので、“吃”が保持する[持続]の意味特徴が[進行]の概念を形成する土台となっていることが分かる。

なお、“在”の後に目的語が見られないのは、上述の如く、“吃素食”という出来事が習慣的に幾度となく行われるので、一つ一つの出来事地点を明示させる必要がないからである。故に、“我们那口子现在每天在吃素食啊”に含まれている意味は、「(現在の範囲において毎日)彼女が、ある場所において、彼女が菜食をとる」と考えられるので、以下のような論理式が書ける。

(9a) スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
有' 《有' 【在' [她, ϕ, 吃' (她, 素)& 在' {吃' (她, 素), ϕ}], 每天】, 现在》
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ
 アル ～ガ ～トイウ頻度ニ
アル ～ガ ～トイウ範囲ニ

この論理式は“吃' (她, 素)”が「彼女が菜食をする」という意味を表し、“在' {吃' (她, 素), ϕ}”が「それ(彼女が菜食をする)がある場所に存在する」という意味を表し、“在' [她, ϕ, 吃' (她, 素)& 在' {吃' (她, 素), ϕ}]”が「彼女が、ある場所において、彼女が菜食をし、かつそれ(彼女が菜食をする)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し、“有' 【在' [她, ϕ, 吃' (她, 素)& 在' {吃' (她, 素), ϕ}], 每天】”が「彼女がある場所において菜食をしているが、毎日という頻度にある」という意味を表し、“有' 《有' 【在' [她, ϕ, 吃' (她, 素)& 在' {吃' (她, 素), ϕ}], 每天】, 现在》”が「毎日彼女がある場所において菜食をしているが、現在という範囲にある」という意を表している。

次は(10)の中の“一天到晚都在失恋”における“在”について論じる。

(10) 你怎么可以这么损我啊！你的意思是说，我经常失恋，一天到晚都在失恋，失恋已经成为我的习惯，我失恋很有经验，而且我失恋失得驾轻就熟，是不是？(テレビドラマ《夏家三千金》第2話)

(あなた、どうしてこんなにも私をいじめるの！私はいつも失恋していて、朝から晩まで失恋していて、それがすでに私の習慣になって、失恋の経験が豊富で、しかもベテランの領域にあるとでもいうのかしら？)

ここでは“在”が生起した“一天到晚都在失恋”の文に焦点をあてて論じる。この文における“在”は[非現場進行]であると判断しえる。そのポイントとなる成分は“一天到晚”である。これは「朝から晩まで」といった意を表わすので、失恋が何度も行われていることが推測できる。よって、この文は一つの場所において生じる[進行]ではなく、“失恋”が幾つも存在していることを表現する点に注目が置かれていると見なす。また、この場面はドラマ《夏家三千金》によると、実際に失恋している瞬間ではないことを確認しえる点からも[非現場進行]と解釈するのが妥当であるといえる。

更にこの文の“在”の目的語についても考えよう。“一天到晚都在失恋”では“在”に出来事の存在場所を示す成分が後続していない。これは“我经常失恋”、“一天到晚”、“失恋已经成为我的习惯，我失恋很有经验，而且我失恋失得驾轻就熟”といった表現からも判然とするように、ここでの“失恋”は常に起こるべき習慣的な出来事であり、ある特定の出来事地点にはもはや関心がむけられないのである。そのため“一天到晚都在失恋”は「(朝から晩までという範囲において)私が、ある場所において、私が失恋をしている」といった意味を含んでいると解釈できる。従って論理式は、

アル ～ガ ～トイウ範圍ニ

第一に、《独生子女的婆婆妈妈》によると、“我一直都在听你们的话”という出来事がそのシーンにおいて存在していないためである。

次に“我一直在听你们的话”における“在”の目的語について考えることにしたい。この文では“在”の後に場所を示す目的語が現れていない。というのは、上記で明瞭となったように、“我听你们的话”が何度も発生しているので、一つ一つの“我听你们的话”が何処で生じたのかについては注目しえないのである。従って、“我一直在听你们的话”に含まれる意味は、「(ずっとという範囲において)私が、ある場所において、私があなたたちの言うことを聞いている」と解釈することができる。

では“我一直都在听你们的话”を論理表記しておこう。

この式は“听’（我，你们的话）”が「俺があなたたちの言うことをきく」という意味を表し，“在’〔听’（我，你们的话）， ϕ 〕”が「それ（俺があなたたちの言うことをきく）がある場所に存在する」という意味を表し，“在’〔我， ϕ ，听’（我，你们的话）&在’〔听’（我，你们的话）， ϕ 〕〕”が「俺が，ある場所において，俺があなたたちの言うことをきき，かつそれ（俺があなたたちの言うことをきく）がある場所に存在するという様態にある」という意を表し，“有’【在’〔我， ϕ ，听’（我，你们的话）&在’〔听’（我，你们的话）， ϕ 〕〕，一直】”が「俺がある場所においてあなたたちの言うことをきいているが，ずっとという様態にある」という意を表している。

(俺は以前彼女と八年付き合ったけど、そのうち六年も俺を騙していたんだ！)

62

行われていたことが確実となる。従って、“她六年都在骗我”は、(12)の発話時間において、これまでに生じた“她骗我”を全て様態的に一纏めで表現した文であるということが分かる。

また、この文は[非現場進行]なので、“她骗我”の存在場所を明瞭にさせることは困難である。そのため“她六年都在骗我”の“在”の後方には出来事の存在場所を示す成分が生起していないのである。というのも、数年間にも渡って“骗”を被り続けてきた発話者にとって、その出来事地点が毎回どこであったのかを記憶しているはずがないからである。

なお、“她六年都在骗我”における“骗”は[終息]することなく、概念上、際限なく[持続]を保持する動詞である。よって、この“骗”に内在する[持続]の意味特徴により、幾つもの“她骗我”という出来事の存在、即ち[進行]を表現することが可能となる。以上の考察から、“她六年都在骗我”の中から「(六年という範囲において)彼女が、ある場所において、彼女が俺を騙している」という命題内容を抽出することができるので、

(12a) 騙ス ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

有' 【在' [她, ϕ, 骗' (她, 我) & 在' {骗' (她, 我), ϕ}], 六年】

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

アル ～ガ ～トイウ範囲ニ

と分析できる。この式は“骗' (她, 我)”が「彼女が私を騙す」という意味を表し、“在' {骗' (她, 我), ϕ}”が「それ(彼女が私を騙す)がある場所に存在する」という意味を表し、“在' [她, ϕ, 骗' (她, 我)&在' {骗' (她, 我), ϕ}]”が「彼女が、ある場所において、彼女が私を騙し、かつそれ(彼女が私を騙す)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し、“有' 【在' [她, ϕ, 骗' (她, 我)&在' {骗' (她, 我), ϕ}], 六年】”が「彼女がある場所において私を騙しているが、六年という範囲にある」という意を表している。

以上、副詞“在”が[非現場進行]の意を示す例を全て論じた。最後に[非現場進行]の特徴を総括することにした。それは以下の三つである。

第一に、[非現場進行]は、発話時間に左右されず、複数の出来事を様態的に全て抽出する点に表現の重点が置かれた[進行]であるということである。

第二に、[非現場進行]は、出来事地点が複数に及び、一つ一つの出来事地点には注目されないということである。

そして第三に、[非現場進行]は、複数の出来事を保証する“最近”、“現在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”といった成分が生起する傾向にあるということである。

4.3 第四章の結び

本章は論理的な観点から副詞“在”を[現場進行]と[非現場進行]の二タイプに区分して考察を行った。また、各用例に対して、命題論理と述語論理を併用した論理式による解析を行った。そこで、“在”が示す二つの[進行]の特徴を以下のように示す。同時に本章で考察した例文の中の重要な個所を抜き出して列挙させておこう。

表一[“在”が示す二つの[進行]の特徴]

[現場進行]	[非現場進行]
(1) 我的手机 <u>在</u> 响 (2) 我 <u>在</u> 打车 (3) 我知道你 <u>在</u> 听着 (4) 既然你们 <u>在</u> 工作，我就不打扰了 (5) 和几位杭州来的茶商 <u>在</u> 说话	(6) 我 <u>最近</u> <u>在</u> 减肥 (7) 我 <u>现在</u> <u>在</u> 念书 (8) 她 <u>现在</u> <u>在</u> 跟欧阳 <u>在</u> 交往 (9) 我们那口子 <u>现在</u> <u>每天</u> <u>在</u> 吃素食啊 (10) 我经常失恋， <u>一天到晚</u> <u>都</u> <u>在</u> 失恋 (11) 我 <u>一直</u> <u>都</u> <u>在</u> 听你们的话 (12) 我跟我的前女友谈了八年的恋爱，她 <u>六年</u> <u>都</u> <u>在</u> 骗我
1. 発話時間における[進行]。	1. 発話時間に制限されない[進行]。
2. 出来事地点が一つ。	2. 出来事地点が複数に及ぶ。
3. 時間幅を提供する成分が生起していない。	3. 時間幅を提供する成分(“最近”、“现在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”)が生起。

即ち表一の要点は以下の三つである。

まず、[現場進行]は、発話時間においてのみ出来事が[進行]していることが分かる。一方、[非現場進行]は、発話時間に制限されない[進行]を指すということが看取しえる。

また、[現場進行]の出来事地点は一か所であり、[非現場進行]の出来事地点は複数に及ぶということである。

そして、[現場進行]は出来事の多発を証明する成分が生起せず，[非現場進行]は出来事の多発を証明する“最近”、“现在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”といった成分が生起するということである。

注

- 1) 本章は青木(2014c)の『時態副詞“在”が表す二つの進行の論理意味分析』に対して加筆、修正を行ったものである。
- 2) もし“在”構文における出来事(event)が既に[終息]し、複数の出来事の存在といった概念を表現することができないと非文になる。龚千炎(1995:95)では成立しえない“在”構文を挙げている。

(56)*他在看一眼。

(57)*他在跑两趟。

(58)*他一天在查一次。

(59)*你在等一会儿。

(60)*他在躺一个晚上。

(61)*我只在站 10 分钟。

龚千炎(1995:95) はこれらの文について以下のように説明している。

「“在” + 動詞の後方には、時間量や動作量を表す成分を伴うことができない。というのは、“在”は動作行為の進行や過程の延長を表わすが、時間量と動作量は過程の[終息]を表わすので、“在”とこれらの成分は意味上排斥し合うからである。」

3) 論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”、“《 》”の五つを使用する。そして“()”が最も作用域が狭く、“《 》”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】 < 《 》

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭く、“【 】”は“《 》”より作用域が狭いことを表している。

4) 論理式に対する意味注釈が多く煩雑な時は、読みやすくするために、ある一部の意味注釈を斜線で表記する。以下の論考における意味注釈も同様とする。

5) “有’[听’{你,说’(我话)},着]”において“有”が用いられているが、これは『論理哲学論考』(ウイトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳:184)における記述を拠り所としている。野矢は論理形式について次のような注釈を与えている。

「ある対象の論理形式とは、その対象がどのような事態のうちに現れうるか、その論理的可能性の形式のことである。たとえばある対象 a が赤い色をしていたとしよう。対象 a にとって赤いという色は外的性質であり、他の色をもつこともありえた。つまり、〈a は青い〉〈a は黄色い〉等の事態も可能である。このことを、「対象 a は色という論理形式をもつ」と言う。……」

故に、以下の論理式において“有”を用いた場合には、以上の「論理形式」の概念に基づいて使用したとする。

6) ここでの見解は龚千炎(1995:27)の注釈を参照した。即ち、龚千炎は[進行]の意を示す“在”についての論考で、多くの同類の個体が、絶えず同じ動作行為をしたり、変化している場合、“在”を用いることができる、といった見解を述べている。

第五章 副詞“在”が表す[複数の出来事の存在]

5.0 はじめに

これまで多くの論考において副詞の“在”は[進行]の意を表すと見なされてきた。しかし管見の及ぶ限りでは、この副詞“在”が表す[進行]の概念を論理的な視点から厳密に追及した論考は見当たらない。そこで、本章では“在”が表す[進行]の概念が論理的に如何なるしくみによって成立しているのかを明らかにする。主たる考察方法は副詞“在”が生起する文を五つのタイプに分けて分析し、“在”が示す[進行]とは厳密に[複数の出来事の存在]の意であることを証明する。そして、この[複数の出来事の存在]は、“在”に後続する動詞が保持する[持続]の意味特徴や、文中の他の成分や前後の文脈により、出来事が「数量化」することによって成立していることを提示する。

5.1 複数の出来事の存在を表す“在”

考察の便宜を図り、副詞“在”が生起した文を以下の五つに分ける。

- ① 複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例
- ② 複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例
- ③ 複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例
- ④ 複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例
- ⑤ 他の文脈から[進行]を明確に判断できる例

これらは“在”が表す[複数の出来事の存在]の意の理解に最も貢献する成分の特徴に基づいて区分した。一つ指摘しておきたいことは、論理上“在”の[進行]概念は、他の成分や前後の文脈がなくても、動詞が[持続]の意味特徴を保持することで成立しえる、ということだが、これに関しては本論文の第四章における論考によってすでに明らかとなっている。そこで、本章では、動詞に内在する[持続]の意味特徴に加えて、他の成分や前後の文脈にも注目し、“在”が示す[進行]とは[複数の出来事の存在]であることを証明したい。また、本章では、第四章で提示した[現場進行]と[非現場進行]の概念を、一律に[複数の出来事の存在]の意として解釈することとなる。

まず複数の時間概念が[進行]、即ち[複数の出来事の存在]を明示させる文について考察する。

5.1.1 複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例

用例は全部で三つある。(1)は“时时刻刻”に含まれる複数の時間概念によって[複数の出来事の存在]の意味を明確に把握することができる文である。

- (1) 妈，您不知道啊，我跟您说，就比如说璐璐吧，她 80 斤，我呢，110 斤，我要比她多背 30 斤的面口袋吧，我上学背着，我吃饭也背着，我上体育课也背

着、我睡觉也背着、我时时刻刻都在背着它、您说、我能不补充点儿卡路里吗？（テレビドラマ《家有儿女 第四部》第 55 話）

（お母さん、あのね、例えば璐璐の体重は 40 キロで、僕はというと 55 キロだから、15 キロも多くの負荷を背負わなければならないんだよ。僕は登校の時に背負っていて、ご飯の時も背負っていて、体育の授業でも背負っていて、寝る時にも背負っていて、どんな時でもずっと背負っているんだ。だからカロリーを摂らないなんてことができると思う？）

ここでは“我时时刻刻都在背着它”における“在”を中心に詳述する。この文の目的語である“它”は(1)の二行目にある“面口袋”を指示している。この“面口袋”は本来「小麦の袋」の意であるが、ここでは肥満気味の発話者（“小雨”）の体重を指している。まず“背着”の箇所注目されたい。論理的な角度からいうと、“背”は一度背負うとその動作は[終息]するため、背負うという動作がそれ以上[持続]することがない。しかし、背負った後の結果は[持続]しえるので、時態助詞の“着”を伴って、“小雨”が太って体に贅肉がついた後の結果を[持続]させることができる。従って、このように“背着”が[持続]の出来事を保持することによって、“背着”が、“在”の[複数の出来事存在]の意を生じさせるための重要な基礎を造っていると見なしえる。

さて、次は“我上学背着、我吃饭也背着、我上体育课也背着、我睡觉也背着”に留意されたい。これらを見ると、全てに“背着”という出来事があることに気づく。故に“背着它”という出来事が変化せず存在していると理解できる。そのため、“我时时刻刻都在背着它”の“在”の前方には副詞“都”が生起し、“时时刻刻”において、例外なく“背着它”という出来事が存在していると見なしえる。要するに、“我时时刻刻都在背着它”は、“我上学背着”、“我吃饭也背着”、“我上体育课也背着”、“我睡觉也背着”といった四つの出来事の意味を包括しているのである。

注目に値することは、この“我时时刻刻都在背着它”は、“时时刻刻”によって[進行]の流れを感じとることができるが、“在”自身は、出来事存在の様態的に列挙する操作を行うだけで、動態的ではない、即ち、時間概念と直接関係を持たないのである。そこで以上の考察を踏まえて、“我时时刻刻都在背着它”に含まれている意味を次のように図示する。

(1a)	○	○	○	○
	上学	吃饭	上体育课	睡觉
上学	→	小雨背着它		
吃饭	→	小雨背着它		
上体育课	→	小雨背着它		
睡觉	→	小雨背着它		

(1a)は、“小雨背着它”という出来事が、“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”という四つの出来事において、変化することなく存在している有り様を示している。つまり、丸の記号である“○”は“小雨背着它”を示している。従って、“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”という四つの出来事が行われている時にも、“小雨背着它”が存在していると看取できる。ここで指摘しておきたいのは、(1a)には時間軸のようなものが用いられていないことである。これは、“在”自体は時間概念を表わさないことを意味している。故に、“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”という四つの出来事を列挙した順番は、(1)の発話者である“小雨”の朝から順番に行われる習慣的な行為に基づいて配列しただけであり、この四つの出来事が動的に移動していることまでは表現していない、と考える。よって、“我时时刻刻都在背着它”の“在”は[複数の出来事の存在]を表すといえる。

今度は(2)の“无时无刻都在想着梅芬”(ずっと梅芬のことを思い続けている)における“在”について論じよう。ここでは“无时无刻”によって[複数の出来事の存在]の意をはっきりと理解することができる。

(2) 其实我脑中，无时无刻都在想着梅芬。可一觉醒来，我面对的却是一个陌生的女人，怎么会这样，我才二十多岁，我的人生才刚刚开始。三弟，我不甘心，我不甘心，我不甘心啊！(テレビドラマ《家》第3話)

“无时无刻都在想着梅芬”において“在”が[複数の出来事の存在]を表わす原因は以下の二点から明白となる。第一に、“无时无刻”の生起によって“在”の[複数の出来事の存在]の意をはっきりと認識しえることである。つまり、“无时无刻”が生起したということは、“想着梅芬”という出来事がどんな時でも存在している、と解釈できるので、“想着梅芬”を幾つも捉えることができる。そのため“在”の前には副詞“都”が生起している。

忘れてはならないことは、持続動詞の“想”と[持続]を示す時態助詞“着”が[進行]の成立を補佐していることである。

次は(3)を見られたい。ここでは“除了上课，其他时间”がポイントとなる。

(3) 刚好排球队下半年也有一个全市比赛，这下静秋就忙了，除了上课，其他时间都在打球。(小説《山楂树之恋》127頁)

(ちょうどバレー部は後期も市大会が行われるので、こうなると静秋はたちまち忙しくなる。授業以外の時間はすべて練習をしていた。)

この(3)では“除了上课，其他时间都在打球”に焦点を当てて論じる。この文において[複数の出来事の存在]の意を明晰にしているのは“除了上课，其他时间”である。これにより“打球”という出来事が複数存在していることが保証され、出来事が「数量化」する。そのため、副詞“都”が“在”の前に生起している。

また、動詞“打”の意味特徴も[複数の出来事の存在]を表現するための重要な成分である。即ち、“打”は論理的な観点からいうと、[持続]の意味特徴を保持し

ているので、“打”が有する[持続]の意味特徴が複数の出来事の存在を成立させる条件を与えていると考えられる。

次は複数の場所の概念によって“在”の[複数の出来事の存在]の意をはっきりと認識できる例を挙げる。

5.1.2 複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例

用例は全部で四つある。まず(4)の“网上都在传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”では“网上”に注目しながら考察を行う。

(4) 网上都在传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭。(テレビドラマ《女人的颜色》第27話)

(ネット上ではどこでも姚倩倩が浮気女として他人の家庭をめちゃくちゃにしている噂が流れている。)

“网上都在传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”の“网上”に注目されたい。ここでの“网上”は総称的な概念であり、幾つもの場所を含んでいる。そのため、副詞の“都”が生起しており、“网上”の到るところで“传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”という出来事が存在していることが分かる。よって、“传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”という出来事に「数量」概念が生じていることになる。

また、動詞の“传”も[複数の出来事の存在]の成立に大きく貢献している。つまり“传”は論理的な観点から言うと、永遠に[持続]していく意味特徴を有している。従って“传”は“传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”という出来事が変化することなく幾つも存在する可能性を与えていると考えられる。

次は“书里的每个字都在跳动、变化”の部分について詳述する。

(5) 这个漫长夜里，只有这本书可以和我作伴，书里的每个字都在跳动、变化，我本来耳熟能详的，现在却读不成句，因为这书里好像只写了三个字，孔立夫。(テレビドラマ《京华烟云》第9話)

(この悠久なる長い夜に、ただこの本だけが私と一緒に。本の中の文字は躍動し、変化している。本来ならば熟知しきれるものが、いまそれが読み進められない。なぜならこの本にはたった三文字しか書かれていないようであるからだ。孔立夫と。)

“书里的每个字都在跳动、变化”には“跳动”と“变化”といった二つの動詞が並列しているが、両者はいずれも持続動詞であり、かつ、“书里的每个字都在跳动、变化”には“书里的每个字”が生起しているため、“字”が複数存在していると判断できる。自明の如く、本は数多くの字によって成り立っているからである。故に“跳动、变化”が複数存在していると推論しえる。

今度の(6)は“北平”に複数の場所概念が包摂されていることにより[進行]、つまり[複数の出来事の存在]の意をはっきりと捉えることができる例である。

(6) 他倾耳细听，街上没有一点声音。那最常听到的电车铃声，与小贩的呼声，

今天都一律停止。北平是在悲泣！（小説《四世同堂》45頁）

（彼が耳を澄ませると、街道は静寂しきっている。あのいちばん耳馴染みなトロリーバスの鈴の音と物売りの掛け声は、いま全てピットリと止んでいる。北平が慟哭しているのだ！）

この文では“北平是在悲泣”について詳述する。ここでは“北平”に含まれる複数の場所概念によって“在”が表す[複数の出来事の存在]の意をはっきりと捉えることができる。そこで“那最常听到的电车铃声，与小贩的呼声”に留意されたい。これらは北平の本来のあるべき平和な情景である。しかし“今天都一律停止”により、この時、その普段のあるべき北平の活気が全て失われていることが分かる。即ち、“北平”に存在するさまざまなものから感じ取れる活気のなさが“北平是在悲泣”を意味しているのである。

また、“悲泣”という動詞は[持続]の意味特徴を保持していることから、意味上、“悲泣”という出来事が際限なく存在することができる。つまり、持続動詞である“悲泣”の生起が“在”の[複数の出来事の存在]の概念を生み出す基盤となっているのである。

以上の考察から、“北平”に内在する複数の場所概念と動詞“悲泣”に内在する[持続]の意味特徴によって、“北平悲泣”という出来事が「数量化」していると解釈できる。

さて、次に挙げる(7)は“整个世界”が示す意味によって[複数の出来事の存在]の意を容易に理解しえる例である。

(7) 我觉得所有的东西都是我的，整个世界都在对我笑！（テレビドラマ《艾米加油》第13話）

（何もかも全部わたしの物みたい、世界中がわたしに向かって笑っているわ！）

ここでは“整个世界都在对我笑”を考察対象とする。この文において“在”が[複数の出来事の存在]を表すことを保証する成分は以下の二つである。一つは、“笑”に内在する[持続]の意味特徴である。これによって、“对我笑”という出来事の存在が不変的に保たれるのである。

いま一つは“整个世界”の生起である。つまり、“整个世界”によって、発話者が、世界のどこで何を見ても“对你笑”という出来事存在を知覚しえるのである。そう感じるのも無理はない、用例の引用先である《艾米加油》によると、この時、発話者はひどく恋に溺れているのである。

以上の分析により、“对我笑”という出来事は“整个世界”といった「複数の場所」と“对我笑”が保持する[持続性]によって「数量化」され、[複数の出来事存在]の概念が生じていることが判然とした。

5.1.3 複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例

ここでは、動作主に複数の概念が内在されていることで[複数の出来事の存在]を明瞭に把握できる文を取り扱う。全部で三つの例がある。まず(8)の例について考えてみよう。

(8) 银花，我在路上想了很多，想来想去，我越来越觉得，我们从山里头走出来这一步是对的，你看啊，你现在开始赚钱了，我也赚钱了，连那小麦狗他也想办法要去赚钱了，这一家三口都在赚钱，那用不了好长时间，你看着吧，我们家就会有一个翻天覆地的大变化！（テレビドラマ《温州一家人》第3話）

(8)では三行目の“这一家三口都在赚钱”（一家三人はみな金を稼いでいる）における“在”が[複数の出来事の存在]の意を示していることを証明する。最初に注目すべきは“这一家三口”である。これによって“赚钱”という出来事が複数存在していることが分かる。そのため、“在”の前方には副詞“都”が生起している。また、“这一家三口都在赚钱”の前には“你现在开始赚钱了”、“我也赚钱了”、“连那小麦狗，他也想办法要去赚钱了”といった命題表現が生起している。この中には“赚钱”を行う動作主が三人生起している。つまり“你”、“我”、“他(麦狗)”である。従って、“这一家三口都在赚钱”を発話したということは、概念上、“赚钱”を共通の出来事とし、“你赚钱”、“我赚钱”、“他赚钱”をすべて纏めて様態的に存在させた、と考えることができる。

これに関連して“这一家三口都在赚钱”における動詞の“赚”も[複数の出来事の存在]を表現する上で見逃せない成分である。要するに“赚”は、意味上、際限なく[持続]する意味特徴を有している。故に、“赚钱”という出来事を複数存在させることが可能となり、[進行]を表示することができるのである。

次の(9)における“我们全班同学都在编”では、“全班同学”が[複数の出来事の存在]の意を導くための大きな助けとなっている。

(9) A:老师一看我那作文，就说我这是编的。

B:啊？

A:当然了，也不只是我一个人编，我们全班同学都在编！（テレビドラマ《家有儿女 第一部》第46話）

（「A:先生は私の宿題を一目みると、誤魔化していると言ったわ。」）

（「B:え？」）

（「A:もちろん、私だけじゃなくて、クラスみんなが誤魔化しているのよ！」）

この文は“全班同学”によって“编”の動作主が「数量化」し、[複数の出来事の存在]を明瞭に認識することができる。また、動詞“编”は「(宿題の内容を)誤魔化す」という意を表しているが、この動詞は[持続]の意味特徴を保持しているため、[進行]の成立を支持していると見なしえる。

今度は(10)の“好几个人”に留意されたい。

(10) 有了些眉目，好几个人都在帮忙，总有一个能帮成。(小説《云中之珠》289頁)

(手がかりをいくつか得て、たくさんの人が助けてくれているから、一人は功を奏してくれるだろう。)

ここでの“好几个人都在帮忙”は“好几个人”によって[複数の出来事の存在]の概念が明晰となる。要するに，“好几个人”に含まれるすべての人が“帮忙”を行っているのである。そのため，“好几个人”の後には副詞“都”が生起し，“好几个人”における人々が例外なく“帮忙”を行っているとして理解できる。

また，“好几个人都在帮忙”における“帮忙”が保持する[持続]の意味特徴も[複数の出来事の存在]という概念を成立させるための重要な前提条件である。つまり，“帮忙”が[終息]せず，概念上，[持続]を維持することによって，[複数の出来事の存在]といった[進行]概念を生み出すことが可能になるのである。

次の5.1.4では動作の対象が複数に及ぶことで[進行]，つまり[複数の出来事の存在]の意を導くことができる文について述べる。

5.1.4 複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例

ここでは動作の対象が複数に及ぶことで出来事が「数量化」し，[複数の出来事の存在]の概念が明確となる文について検討する。二つの例を挙げる。一つ目の例は“公司所有的事情”が[複数の出来事の存在]を理解するための鍵となる。

(11) 现在公司所有的事情都是王进在主持！(テレビドラマ《女人的颜色》第25話)

(いま会社のすべてのことはみな王进が掌っているのよ！)

“现在公司所有的事情都是王进在主持”において“在”が[複数の出来事の存在]の意を表すことをはっきりと理解するためには“公司所有的事情”に着目する必要がある。つまり，“公司所有的事情”は，会社における業務が一つに止まらずたくさんあることを意味するので，“王进”が行う“主持”という行為の対象が複数であることが容易に想像できる。従って“王进主持公司的事情”という出来事が何度も存在，言い換えると，[進行]していると見なしえる。

また，“现在公司所有的事情都是王进在主持”における動詞の“主持”にも留意されたい。論理的な観点から考えると，ここでの“主持”は[持続]の意味特徴を保持している。これにより，“王进主持公司的事情”という出来事が変化することなく存在しえるので，持続動詞の“主持”は[複数の出来事の存在]の意の成立に貢献していると考えられる。

続けて(12)の例の分析も行おう。

(12) 这家里的活儿都是我在干。(テレビドラマ《女人的颜色》第44話)

(この家の家事はすべて私がやっている。)

ここでは“这家里的活儿”によって[複数の出来事の存在]が生じる所以が明白となる。それは要するに、“这家里的活儿”によって、複数の“干活儿”という出来事を連想しえるのである。つまりここでの“这家里的活儿”は、ある特定の一つの作業を指示しているのではなく、多くの作業内容を含んでいるのである。そのため、この“这家里的活儿都是我在干”には副詞の“都”が生起している。

また、“这家里的活儿都是我在干”における持続動詞の“干”は論理的に[終息]することがないので、[進行]の成立を支えていると解しえる。

以上から、“这家里的活儿都是我在干”では、“这家里的活儿”と持続動詞“干”によって出来事が「数量化」し、“在”が示す[複数の出来事の存在]の意を明確に理解することができた。

さて、次の 5.1.5 では他の文脈を観察することで[複数の出来事の存在]の意をはっきりと捉えることのできる例を挙げる。

5.1.5 他の文脈から[進行]を明確に判断できる例

ここでは他の文脈によって[複数の出来事の存在]の概念を明晰に把握しえる文について検討する。用例は全部で三つある。まず(13)の例を見られたい。この文では“孙七, 李四妈, 瑞宣, 李四爷, 前后脚的来到钱家”という文脈によって“在”が示す[複数の出来事の存在]の意が判然とする。

(13) 孙七, 李四妈, 瑞宣, 李四爷, 前后脚的来到钱家。事情很简单! 钱孟石病故, 他的母亲与太太在哭。(小説《四世同堂》166 頁)

(孫七、李四叔母さん、瑞宣、李四伯父さんが相次いでに錢家にやって来た。言うまでもない、錢孟石が病で夭折し、彼の母と奥さんが泣いているのである。)

“他的母亲与太太在哭”における“在”が[複数の出来事の存在]の意を表わすことを知る手がかりは二つある。一つは、動詞の“哭”が有する[持続]の意味特徴である。“哭”という動詞は[持続]の意味特徴を有し、かつ、この文には“哭”の[持続]を[終息]させる成分がほかに存在しない。故に、[複数の出来事の存在]の概念を導くことができると考えられる。

第二の手がかりは、“孙七, 李四妈, 瑞宣, 李四爷, 前后脚的来到钱家”という表現にある。つまり、“他的母亲与太太在哭”という出来事は、“孙七”が来た時に存在し、また“李四妈”が来た時に、そして“瑞宣”が来た時に、更には“李四爷”が来た時においても変化することなく行われている、と見なすことができる。

次に(14)の例について考えよう。

(14) A: 曼妮, 你这样老待在屋子里不出去, 久而久之, 会郁闷成病的。

B: 我还能去哪儿呢。

A: 我带你去看电影吧。

B:看电影! ? 电影这东西, 我倒是听说过, 但是没有看过, 我听说, 好像是很多人, 在一块白布上走来走去, 那怎么可能呢!

A:不是真人在走, 是那个放出来的相片, 它一张张的相片吧, 把它连在一块放, 就好像人在走一样。(テレビドラマ《京华烟云》第12話)

この場面は発話者Aの“木兰”と発話者Bの“曼妮”の二人によって演じられている。なお、この(14)の引用先である《京华烟云》は清朝末から抗日戦争までを舞台としたテレビドラマである。発話者Bの“曼妮”は結婚式を挙げた夜に旦那に死なれたが、その後まったく外出せず日々隠遁的な生活を送っていた。“木兰”はその愁いの様子を黙って見ていたが、とうとう居た堪れなくなり、映画鑑賞を勧めようと思いつくに至る。当時、北平においても映画は上演されつつあったが、中国の古典的教養を受けている“曼妮”にとっては理解し難い娯楽であったといえる。(14)における二人の会話はこのような背景を以て展開され、“曼妮”が映画に対して抱く素朴な疑問に対して、博学聡明の“木兰”が行った映画の説明はとても明解で、適材適所たる“在”の運用であると感じさせる対話となっている。

さて、最初に注目されたい箇所は、四行目の“曼妮”が話す“我听说, 好像是很多人, 在一块白布上走来走去, 那怎么可能呢”(話によると、たくさんの人が白い布の上で行ったり来たりしているそうだけど、そんなことありえないわよ)である。その内“走来走去”は(行ったり来たり)という意であり、“走”という動作が“白布”において何度も行われている様子が連想できる。“曼妮”はこのような疑問を口にすると、“木兰”はすぐに続けて“不是真人在走”と答える。ここで注目すべきは、動詞“走”は[持続]の意味特徴を有している、ということである。従って、六行目にある“不是真人在走”の“在”は[複数の出来事存在]の意味を表していると思える。

そして、六行目の“它一张张的相片吧, 把它连在一块放, 就好像人在走一样。”(その一枚一枚をね、一つにつなげて映し出すの、そうすると人が歩いているのと同じ様に見えるのよ。)における“就好像人在走一样”にも[複数の出来事存在]の意を示す“在”が生起している。この文から理解できることは、動画として知覚する映画というのは、一枚一枚の静止画から作られ、その出来事が描かれている全ての静止画を一つに繋ぎ合わせることににより、あたかも人が動いているかのように見える、ということである。この点からも“在”の[進行]を厳密に[複数の出来事存在]と理解することの重要性を改めて感じとることができる。

次は(15)の用例の考察に移ることにする。ここでは“我知道你在听着”の“在”がなぜ[複数の出来事存在]の意を示すのかを考える。

(15) 我知道你在听着, 而且都听进去了。好妹妹, 你连死都不怕, 难道还怕挺起胸膛活着? (テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(君が僕の話の聞いているのをわかっているよ、しかも全て理解したこと

も。良き妹よ、死ぬのも怖くないのなら、胸を張って生きるのが怖いというのかい?)

“我知道你在听着”において、“在”が[複数の出来事の存在]を表わす根拠は以下の二つである。

第一に、“我知道你在听着”の後方にある“而且都听进去了”には“都”が生起していることである。この“都”は、発話者がこの場面で話す全ての内容を聞き手が聴覚によって例外なく捉えたことを意味する。従って“你听着”の変化なき存在、つまり“你听着”を複数の出来事と見なすことができる。

第二に、“听着”が示す[持続性]である。これにより“你听”という出来事の存在が保持されていることが明瞭となる。要するに、持続動詞“听”には[持続]を示す“着”が後続し、“你听”の様態がより安定して保たれるのである。これは、(15)の引用元であるドラマ《京华烟云》が示すように、発話者が、生きる希望を失った友人に対して必死に何度も説得を行っている姿によってより判然とする。¹⁾

5.2 第五章の結び

本章は、副詞“在”が表す[進行]の概念とは厳密に[複数の出来事の存在]であることを明らかにした。即ち、[進行]を表す“在”の生起は、概念上、複数の出来事を様態的に一度に配列させる、といった操作を行ったと見なすのである。その根拠として、副詞“在”が生起した文の出来事は、“在”に後続する動詞が保持する[持続]の意味特徴や、文中の他の成分や前後の文脈によって「数量化」している、ということを提示した。

注

1) “在”と“听”が共起する際に、もし親密に耳を傾けない場合には“着”が生起しないことが多いと思われる。たとえば次の例がそれにあたる。

(a) A: 喂

B: 喂，小曼，是你吗？

A: 我在听。

B: 你真决定了？咱们非离不可呀？

A: 对。(テレビドラマ《独生子女的婆婆妈妈》第40話)

(a)の文が生じた背景を説明すると、この場面は離婚の手続きに関する相談のために旦那が妻に電話をかけたところである。そこで旦那が“小曼，是你吗？”(曼ちゃん、君だよな?)と口を開くと、妻は厳粛な顔つきで“我在听”(聞いているわ)の一文を吐き出す。このような場面では“着”を用いて熱心に相手の話を聞いていることを伝える必要がないため“着”が生起していないと考えることができる。もう一つ例を挙げよう。

(b) 喂，莫愁啊，我是姐姐，我看到了那个报纸了，我想跟你说两句，喂，喂，
在听吗？(テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(もしもし、莫愁、お姉ちゃんよ、あの新聞を見たわ、ちょっと話があるんだけど、もしもし、聞いてるかしら？)

これは姉が妹の“莫愁”に電話を掛けたシーンである。ここでは発話者である姉は相手に意識的に耳を傾けてもらうことを欲しているわけではなく、それ以前に自分の声が相手に届いているか否かを当否疑問文によって問っている段階である。従って、特別“着”を用いて“听”という行為のあり様を詳細に表現せず、“在”のみを生起させるまでに留まったと考えられる。

第六章 副詞“在”の文における時制構造¹⁾

6.0 はじめに

本章は論理的な観点から、副詞の“在”と時制の関係を考察する。そこで、副詞の“在”は時態成分として[進行]の意味を表すという考えに基づいて考察を進める。具体的な考察方法は、絶対時間と相対時間の二つの角度から、時態副詞の“在”が生起する文における出来事を考察する。論点は以下の三つである。

第一に、絶対時間の角度から考察すると、発話時間(speech time)と時態副詞“在”の文における出来事時間(event time)の関係は三つのタイプがあると見なす。つまり、[過去]における[進行]、[現在]における[進行]、或いは[未来]における[進行]である。

第二に、参照時間(reference time)の視点から考察すると、参照時間と時態副詞“在”の文における出来事時間は、[簡単]の関係を構成するということである。

第三としては、集合論(set theory)を用いて副詞“在”が生起した文の生起過程を検討する。その結果、時間体系から見た“在”構文の成立は、時相表現から時態表現、そして時態表現から時制表現という過程を踏むことを提示する。

6.1 絶対時間と相対時間

本章は副詞“在”と時制の関係に着目した考察を行う。その前提として“在”を[進行]の意を表す時態副詞であると見なす。考察を進める上で重要となるのは絶対時間と相対時間の概念である。本章ではこの二つによって時制が構成されていると考える。即ち、絶対時間は、発話時間から“在”が生起する文(即ち出来事時間)を観察するということである。一方、相対時間は、参照時間から“在”が生起する文(即ち出来事時間)を観察するということである。そこで本論に入る前に現代中国語の時制について明解な記述を残している龔千炎(1995)の中から例を取り挙げて、絶対時間と相対時間について確認しておくことにしたい。龔千炎(1995:32)はまず絶対時間の例として以下の三つを挙げている。

(1) 他昨天走的。

(彼は昨日行った。)

(2) 我现在休息。

(私はいま休憩している。)

(3) 他明天才走。

(彼は明日になってから行く。)

最初に(1)の“他昨天走的”の例について説明しよう。この(1)における“他昨天走的”には“昨天”が生起している。従って、発話時間から見ると、“他走”という出来事は[過去]の時制であると見なすことができる。

次に(2)の“我现在休息”の例を見られたい。ここでは、“現在”が生起している。よって、発話時間から考えると、“我休息”という出来事は[現在]の時制であるということが分かる。

そして(3)の“他明天才走”においては、“明天”が生起している。故に、発話時間の視点から言うと、“他走”という出来事は[未来]において発生すると考えることができる。

以上の三例はいずれも発話時間の角度、つまり絶対時間から出来事を捉えた分析である。次は相対時間の角度から考えてみることにしよう。即ち参照時間から出来事を観察するということである。これも同様に三つの例を用いてそれらに対し解説を加える。下記の三例は龔千炎(1995:33-34)からの引用である。

(4) 昨天我到他家时，他离开家好几天了。

(昨日私が彼の家に着いた時、彼は家を出て何日もたっていた。)

(5) 明天我到他家时，他可能在家里等候。

(明日私が彼の家に着いた時、彼はおそらく家で待っているだろう。)

(6) 明天你来我家时，我恐怕还没动身呢。

(明日君が私の家に来た時、私はおそらくまだ出発していないでしょう。)

まず、(4)の例から説明しよう。ここでは“昨天我到他家时”が参照時間である。従って、“昨天我到他家时”から“他离开家好几天了”という出来事を見ると、“昨天我到他家时”の時点で“他离开家好几天了”は既に起こっている。故に、両者の時間関係は[已然]と呼ぶことができる。

次に、(5)の文について考えると、参照時間となる“明天我到他家时”と“他可能在家里等候”という出来事は同じ時間帯に生起したと判断できるので[簡単]と呼ぶことができる。

そして、(6)の文における参照時間の“明天你来我家时”から見ると、“我动身”という出来事はまだ発生していない。故に、両者の時間関係は[未然]と称することができる。

また、龔千炎(1995:34)は、上の(4)、(5)、(6)の文は絶対時間による判断も可能であるとした。

(4a) 昨天我到他家时，他离开家好几天了。

(昨日私が彼の家に着いた時、彼は家を出て何日もたっていた。)

(5a) 明天我到他家时，他可能在家里等候。

(明日私が彼の家に着いた時、彼はおそらく家で待っているだろう。)

(6a) 明天你来我家时，我恐怕还没动身呢。

(明日君が私の家に来た時、私はおそらくまだ出発していないでしょう。)

(4a)は発話時間の角度からいうと、“昨天”が生起しているので“他离开家好几天了”という出来事は[過去]の時制であると見なしえる。(5a)は“明天”が生起

していることから、“他在家里等候”という出来事は[未来]の時制であると考えられる。同様に(6a)においても、発話時間から考えると、“明天”が用いられているが故、“我动身”という出来事は[未来]の時制であると解することができる。

以上から、時制は絶対時間と相対時間を織り交ぜての解釈が可能であるということが分かった。以下、実際に[進行]の意味を表す副詞“在”が生起する例を用いて“在”と時制構造の関係を論じることになろう。

6.2 副詞“在”における時制構造

以下実例を挙げながら時態副詞の“在”がどのような時制構造を形成するのかを明らかにする。用例は全部で六つある。まず6.2.1の(1)の文について考えよう。

6.2.1 [過去]-[簡単]における“在”構文

- (1) 你知道吗，我跟茜茜第一次见面就在这里，当时她在找《简·爱》，我呢，在看《悲惨世界》，莫名其妙我们两个人就撞在一起了。(テレビドラマ《儿女情更长》第2話)

(知っている、僕が茜茜と初めて会ったのはここなんだ。あの時彼女は《简·爱》を探していて、僕は《悲惨世界》を読んでいたんだ。すると不思議にも知りあってしまったんだ。)

ここでは“我跟茜茜第一次见面就在这里，当时她在找《简·爱》”の部分における時制について検討する。絶対時間の視点、即ち発話時間から“她在找《简·爱》”という出来事を観察すると、ここでは“当时”が生起しているので、“她在找《简·爱》”は[過去]において行われた出来事であるということが分かる。つまり、“在”は[過去]における[進行]を示していると見なす。

一方、相対時間の視点から言うと、参照時間の“当时”と“她在找《简·爱》”は[簡単]の関係にあると見なしえる。要するに、“当时”という時間帯において、“她在找《简·爱》”が同時に存在していると解釈することができる。

さて、次は“在”がなぜ[進行]の意味として成立したのかについて考える。それは、動詞の“找”が[持続]の意味特徴を有しているからである。つまり“找”は「探す」という意味を表し、探したものが見つかるまで、或いは、諦めるまで永遠に[持続]し続ける行為である。従って、“她找《简·爱》”という出来事が論理上[終息]することなく存在することが可能となり、[複数の出来事の実在]、つまり、[進行]の表現が成立すると解釈できる。

また、“在”に後続する目的語の省略についても注目されたい。この“她在找《简·爱》”という文では、“在”の後ろに場所を表す目的語が生起していない。しかし“她在找《简·爱》”の前方における“我跟茜茜第一次见面就在这里”では“这里”が生起している。故に、“她在找《简·爱》”の出来事地点は“这里”であると推測しえる。即ち、“这里”は“我跟茜茜第一次见面就在这里”において既に生起し

たので、“她在找《简・爱》”では既知の情報として省略された、と考えることができる。よって、“她在找《简・爱》”に含まれる意味は厳密にいうと「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探している」と見なしえる。そして、この“她在找《简・爱》”には[過去]の時制を定める“当时”が生起しているのです、以下の(1a)のような論理式を造ることができる。²⁾

(1a) 探ス ～ガ ～ヲ
 有'【在' [她, 这里, 找' (她, 《简・爱》)&
 アル ～ガ ～ニオイテ
 アル ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ
 在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}], 当时】
 ～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

この式全体は「彼女がここで《简・爱》を探しているが、[過去](当時)の時制にある」という意味を表している。つまり、[過去]の時制を指定する“当时”の意味は“她在找《简・爱》”全体に影響を与えていると考えるのである。そして式の内部にある“找' (她, 《简・爱》)”は「彼女が《简・爱》を探す」という意味を表わし、“在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”は「それ(彼女が《简・爱》を探す)がここに存在する」という意味を表わし、“在' [她, 这里, 找' (她, 《简・爱》)&在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}]”は「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探し、かつそれ(彼女が《简・爱》を探す)がここに存在するという様態にある」という意を表わしている。次の(2)では“前两天”が[過去]の時制を決定づける役割を果たしている。

(2) 我前两天在街上看到有人在在卖《海贼王大战爱情三脚猫》。(テレビドラマ《爱情公寓 第三季》第20話)

(私、数日前に道端で誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売っているのを見たわ。)

この文では“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の箇所が考察対象である。最初にこの文の時制について検討しよう。まず、発話時間の視点から見ると、“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”には“前两天”が生起しているのです、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”が[過去]において行われた[進行]であると見なすことになる。

一方、参照時間の角度から考察すると、“前两天”において“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”が存在していると理解できるので、両者の関係は[簡単]であると見なしえる。

次に“在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”における“卖”という動詞に留意すると、ここでの“卖”は[持続]の意味特徴を有していると考えられる。つまり、概念上“卖”が終わりなく続くことによって、“有人卖《海贼王大战爱情三脚猫》”という出来事存在の存在、言い換えれば“有人卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の[進行]が保証されるのである。

また、“在”の後の目的語の省略に関しては、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の前に“街上”が既に生起していることから、概念上、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”における“在”の後の“街上”が既知の情報として省略されたと考えることができる。従って、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”に内在する意味は「誰かが、道端において、誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売っている」となる。では、[過去]の時制を決定させる“前两天”の成分に注目しながら“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”を論理表記してみよう。

(2a) 売ル ～ガ ～ヲ
有'【在' [φ, 街上, 卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)&
アル ～ガ ～ニオイテ
アル ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ
在' {卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}], 前两天]
～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

この論理式は、まず“卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)”が「誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売る」という意味を表している。次に、“在' {卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}”が「それ(誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売る)が道端に存在する」という意味を表している。そして、“在' [φ, 街上, 卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)&在' {卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}]”が「誰かが、道端において、誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売り、かつそれ(誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売る)が道端に存在するという様態にある」という意味を表している。最後に(2a)の式全体である、“有'【在' [φ, 街上, 卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)&在' {卖' (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}], 前两天]”が「誰かが道端において《海贼王大战爱情三脚猫》を売っているが、[過去](数日前)という時制にある」という意を示している。次の(3)は“刚才”によって[過去]の時制が成立する例である。

(3) A: 你还不承认是不是? 那你刚才跟二少爷干什么呢? 你说话呀, 你刚才跟二少爷干什么呢! ?

B: 二少爷刚才烫伤了手, 我在帮他擦酱油。(テレビドラマ《京华烟云》第

24 話)

(A:「まだ認めないわけ?じゃさっき私の旦那と何をしていたの?言っ
てご覧なさい、さっきあなたは旦那と何をしていたの!?)」)

(B:「旦那様が先ほど手にやけどを負ったので、私が醬油を塗ってあげて
いました。」)

三行目の“我在帮他擦酱油”は、前の“二少爷刚才烫伤了手”において“刚才”
が生起し、また、“那你刚才跟二少爷干什么呢?你说话呀,你刚才跟二少爷干什
么呢!?”という表現が生起しているので、[過去]の[進行]であると考えられる。
以上の判断は発話時間から観察した結果である。

そこで今度は参照時間の立場から考えると、“二少爷刚才烫伤了手”と“我在
帮他擦酱油”の発生時間はほぼ同時であると思えるので、両者は[簡単]の関
係にあると解しえる。

さて、このように“我在帮他擦酱油”の“在”が[進行]を表すことができるの
は、“我在帮他擦酱油”における動詞“擦”の意味特徴に原因がある。つまり、こ
こでの“擦”は[持続]の意味特徴を有し、かつ、“擦”の[持続]は、“我帮他擦酱
油”の文において、他の成分によって[終息]することがない。よって、“擦”は、
論理上、尽きることなく[持続]の出来事を生成し、[進行]の表現を提供させてい
ると理解できる。

また、“我在帮他擦酱油”における“在”の後には、場所を表わす目的語が生起
していないが、これは発話者が“帮他擦酱油”を行った場所を知っているからで
ある。これはドラマ《京华烟云》を確認すると“我在帮他擦酱油”が生じた時の
場所をはっきりと看取できる。要するに、発話者は、発話地点である“这儿”「こ
こ」が“我在帮他擦酱油”の出来事地点であることをすでに把握しているため“这
儿”を省略したのである。以上の考察から、“我在帮他擦酱油”は「私が、ここに
おいて、私が彼に醬油を塗ってあげている」という意を包摂していると解しえる
ので、以下のような論理式を書くことができる。

(3a) 塗ル ~ガ ~ヲ 到ル ~ガ ~ニ
有' <在' 《我,这里,帮' [我,他,擦' (我,酱油)&到' {擦' (我,酱油),他}]
スル ~ガ ~ニ ~トイウコトラ
アル ~ガ ~ニオイテ
アル ~ガ

存在スル ~ガ ~ニ
&在' 【帮' [我,他,擦' (我,酱油)&到' {擦' (我,酱油),他}],这里】》,刚才)
~トイウ様態ニ

~トイウ時制ニ

この論理式は“擦’ (我, 酱油)”が「私が醤油を塗る」という意味を表し,
“到’ {擦’ (我, 酱油), 他}”が「それ(私が醤油を塗る)が彼に到る」という意味
を表し, “帮’ [我, 他, 擦’ (我, 酱油)&到’ {擦’ (我, 酱油), 他}]”が「私が, 彼に,
私が醤油を塗り、かつそれ(私が醤油を塗る)が彼に到る」という意味を表してい
る。ここまでが“我帮他擦酱油”の意味を示す論理式である。

次に“我帮他擦酱油”に“在”の意味が加わると, “在’ 《我, 这里, 帮’ [我,
他, 擦’ (我, 酱油)&到’ {擦’ (我, 酱油), 他}]&在’ 【帮’ [我, 他, 擦’ (我, 酱油)&
到’ {擦’ (我, 酱油), 他}], 这里】》”となって, 「私が, ここにおいて, 私が彼に醬
油を塗ってあげ、かつそれ(私が彼に醤油を塗ってあげる)がここに存在するとい
う様態にある」と解釈する。

そして最後に, “我在帮他擦酱油”に“刚才”の意味が加わったことを表現した
式, つまり(3a)の論理式全体である“有’ 〈在’ 《我, 这里, 帮’ [我, 他, 擦’ (我,
酱油)&到’ {擦’ (我, 酱油), 他}]&在’ 【帮’ [我, 他, 擦’ (我, 酱油)&到’ {擦’ (我,
酱油), 他}], 这里】》, 刚才)”は, 「私がここにおいて彼に醤油を塗ってあげてい
るが, [過去](先ほど)という時制にある」という意を表している。

次は[現在]における“在”構文について論じる。

6.2.2 [現在]-[簡単]における“在”構文

(4) A: 去把黎听叫到我书房去。

B: 他, 他这会儿应该在睡觉啊。(テレビドラマ《离婚前规则》第27話)

(A: 「黎听を俺の書斎へ呼んでこさせるんだ。」)

(B: 「あの子は今きっと寝ていると思います。」)

(4)では“他这会儿应该在睡觉”の部分について詳述する。発話時間から見ると,
“他这会儿应该在睡觉”は“这会儿”が生起しているのので, “他这会儿应该在睡觉”
は[現在]における[進行]であると見なしうる。また, 参照時間と成りえる“这会
儿”の角度から見ると, “这会儿”と“他在睡觉”は同じ時間帯において存在して
いるので, [簡単]の関係を構成しているという解釈となる。

さて, 次は“他这会儿应该在睡觉”の出来事地点について考えたい。発話者 B
の視点からいうと, この“他睡觉”という出来事が[進行]する場所は“那儿”で
あると考える。というのは, テレビドラマ《离婚前规则》によると, この場面は,
家の一階で, 発話者 A と発話者 B が, 息子のことについて話し合っているところ
である。発話者 A は父親で, 発話者 B は母親である。そして, “睡觉”の動作主で
ある“他”は発話者 A と発話者 B の息子ということになる。よって, 息子の習慣
を熟知している母親の発話者 B の立場から言うところ, 息子が行う“睡觉”の出来事
地点は二階の息子の部屋, つまり「あそこ」であることを認識しているので, 発
話の際には既知の情報としてこれを省略したと推論しうる。従って, “他在睡觉”
は「彼が, あそこにおいて, 彼が寝ている」という命題内容を有していると判断

できる。

また、ここでの“在”が[進行]の時態を示しえるのは、“他这会儿应该在睡觉”の動詞である“睡觉”が[持続]の意味特徴を保持しているからである。故に，“睡觉”に内在する[持続]の意味特徴によって，[複数の出来事の存在]，換言すると，[進行]の意を表現することができる，といえる。つまり，論理上，“他睡觉”という出来事が変化することなく存在し続けられるということである。

そこで，“他这会儿应该在睡觉”の“在”と時制にのみ注目して論理表記すると以下のようなになる。

(4a) トル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

有'【在' [他, 那儿, 睡' (他, 觉) & 在' {睡' (他, 觉), 那儿}], 这会儿】

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

アル ～ガ ～トイウ時制ニ

この論理式は“睡' (他, 觉)”が「彼が睡眠をとる」という意味を表し，“在' {睡' (他, 觉), 那儿}”が「それ(彼が睡眠をとる)があそこに存在する」という意味を表し，“在' [他, 那儿, 睡' (他, 觉)&在' {睡' (他, 觉), 那儿}]”が「彼が，あそこにおいて，彼が睡眠をとり、かつそれ(彼が睡眠をとる)があそこに存在するという様態にある」という意味を表し，“有'【在' [他, 那儿, 睡' (他, 觉)&在' {睡' (他, 觉), 那儿}], 这会儿】”が「彼があそこにおいて睡眠をとっているが，[現在](この時)という時制にある」という意味を表している。さて，次に考察する(5)の文では[現在]の時制を表す成分として“現在”が生起している。

(5) 我现在差不多在专心研究佛法。(テレビドラマ《四世同堂》第1話)

(私は今ほとんどもっぱら仏教を研究しています。)

この(5)では“我现在差不多在专心研究佛法”が考察対象となる。そこで“在”を中心にした考察にするため，便宜を図って“我现在差不多在专心研究佛法”を“我现在在研究佛法”という命題表現に置き換えて論じることにする。この文における時制は“現在”によって[現在]の時制であることが分かる。一方，“現在”を参照時間に当て嵌めて“我在研究佛法”との時間関係を考察すると，両者は同時に成立していると考えることが可能である。従って，両者は[簡単]の関係を構成していると思しえる。

そして，この文における“在”が[進行]の時態を表しえるのは，持続動詞の“研究”が重要な役割を果たしていることにある。即ち，“我现在在研究佛法”における動詞“研究”は[持続]の意味特徴を有しているが故，概念上「仏教を研究する」という出来事の限度なき存在が実現するのである。

また，“我现在在研究佛法”における“在”の後方には目的語が生起していない。というのは，発話時間以外において幾度となく“我研究佛法”という出来事が存在しているからである。このように解釈した所以は“現在”が示す意味にあ

る。即ち“現在”は《現代汉语词典(第6版)》(2012:1416)によると、時として「この時、発話の時を指す。時に発話前後の一定の時間を含む。」といった意味を表すので、“我研究佛法”という出来事が多発、言い換えると、“我研究佛法”という出来事が複数存在していると推測しえる。これは、(5)の場面をドラマ《四世同堂》で確認すると、その場面では、発話者である“冠晓荷”は、実際に仏教について研究していないことから確かな判断であるといえる。³⁾

以上の分析によって、“我现在在研究佛法”は「私が、ある場所において、私が仏教を研究している」という意が含まれていると考えられる。では、“在”と時制の役割を果たす“現在”に着目して以下の如く論理表記してみよう。

(5a) 研究スル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

有'【在' [我, φ, 研究' (我, 佛法) & 在' {研究' (我, 佛法), φ}], 現在】

アル ~ガ ~ニオイテ

~トイウ様態ニ

アル

~ガ

~トイウ時制ニ

この式は“研究' (我, 佛法)”が「私が仏教を研究する」という意味を表し、“在' {研究' (我, 佛法), φ}”が「それ(私が仏教を研究する)がある場所に存在する」という意味を表し、“在' [我, φ, 研究' (我, 佛法)&在' {研究' (我, 佛法), φ}]]”が「私が、ある場所において、私が仏教を研究し、かつそれ(私が仏教を研究する)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し、“有'【在' [我, φ, 研究' (我, 佛法)&在' {研究' (我, 佛法), φ}], 現在】”が「私があある場所で仏教を研究しているが、[現在]という時制にある」という意を表している。次は統語上[現在]の時制を示す成分が生起していない例について考えよう。

(6) 喂，莫愁啊，我是姐姐，我看到了那个报纸了，我想跟你说两句，喂，喂，在听吗？(テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(もしもし、莫愁、お姉ちゃんよ、あの新聞を見たわ、ちょっと話があるんだけど、もしもし、聞いてるかしら?)

“在听”には時制を決定づける成分が字面上存在しない。ところが、张道生(2004:175)の「時間を明示する成分がない場合、現在の時制を表す」という記述に基づくと、“在听”は[現在]において生じたと考えられる。また、ドラマ《京华烟云》を見ると、(6)の会話がその現場、つまり“現在”において行われていることがはっきりと看取できる。一方、参照時間から見ると、“現在”と“在听”は同時に生起しているため、両者の関係は[簡単]であると解しえる。

次に、“在听”における動詞“听”の意味特徴について考えると、この“听”は[持続]の意味特徴を保持し、概念上、“听”という出来事を際限なく存在させることができるが故、“在”は[進行]の時態を表すことができると解しえる。

そして、意味上“在”に後続する目的語について考えると、“听”が行われている場所は、文脈的に見てもそれが何処であるのかが分からない。この謎を解くに

は(6)の引用先であるドラマ《京华烟云》を慎重に視聴する必要がある。《京华烟云》によると、この(6)における場面は、発話者は、妹の“莫愁”がいる実家の固定電話に向かって電話をかけているので、妹の“莫愁”が電話で会話をする地点は特定の一か所に限定される。従って、発話者が出来事地点を示さずに“在听”と発話した所以は、発話者が、実家の分かり切った場所に置かれている固定電話の地点の“那儿”「あそこ」を既知の情報と見なし、省略したからである、と解しえる。故に、“在听”は「あなたが、あそこにおいて、あなたが私の話しを聞いている」という命題内容を含んでいると理解できるので、以下のように論理表記できる。

(6a) スル ～ガ ～ヲ

有' 《在' 【你, 那儿, 听' {你, 说' (我, 话)}&

聞ク ～ガ ～ヲ

アル ～ガ ～ニオイテ

アル ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ

在' [听' {你, 说' (我, 话)}, 那儿]], 现在》

聞ク ～ガ ～ヲ

～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

ここでは、まず、“说' (我, 话)”が「私が話をする」という意味を表し、“听' {你, 说' (我, 话)}”が「あなたがそれ(私が話をする)を聞く」という意味を表している。次に“在' [听' {你, 说' (我, 话)}, 那儿]”が「それ(あなたが私が話をするのを聞く)があそこに存在する」という意味を表している。そして、“在' 【你, 那儿, 听' {你, 说' (我, 话)}&在' [听' {你, 说' (我, 话)}, 那儿]”が「あなたが、あそこにおいて、あなたが私が話をするのを聞きかつ、それ(あなたが私が話をするのを聞く)があそこに存在するという様態にある」という意味を表している。(6a)の式全体である“有' 《在' 【你, 那儿, 听' {你, 说' (我, 话)}&在' [听' {你, 说' (我, 话)}, 那儿]], 现在》”が「あなたがあそこにおいて私が話をするのを聞いているが、[現在]という時制にある」という意を表している。次は[進行]の意を示す“在”構文が、[未来]の時制において生起する文について検討する。

6.2.3 [未来]-[簡単]における“在”構文

(7) 我希望能遇上爱情, 为了开心, 给他找个好爸爸。我也希望有一天回到家的時候, 有人在等待我。(テレビドラマ《儿女情更长》第8話)

(愛にめぐり合うことが出来たらいいわ、息子の開心的のためにも、よいお父さんを見つけないの。家に帰った時に、誰かが私を待っていて欲しいとも

願っているわ。)

(7)の二行目にある“有人在等待我”は、前方の“我也希望有一天回到家的时候”によって、[未来]の[進行]であると見なすことができる。これは発話時間からの観察である。

一方、参照時間、つまり“我也希望有一天回到家的时候”の視点から“有人在等待我”を見ると、この二つの出来事は同時に成立していることが分かる。故に、両者は[簡単]の関係にあると見なしえる。

また、“有人在等待我”が[進行]しているのは、動詞の“等待”が[持続]の意味特徴を保持しているためである。これによって、論理上“有人等待我”という出来事が際限なく存在しえることが保証され、[進行]の時態が表現できると解しえる。

そして“有人在等待我”における“在”の後ろには出来事地点を示す目的語が生起していない。ところが、前方の“我也希望有一天回到家的时候”では“家”が生起しているので、後の“有人在等待我”の出来事地点も「家」と推測することができる。故に、“有人在等待我”では、「家」を分かり切った情報として省略したと考えると、この文に含まれる意味は「ある人が、家において、ある人が私を待っている」と見なしうる。では、以上の考察を基に“有人在等待我”の部分を論理式で表わしてみよう。

(7a) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

有' 【在' [φ, 家, 等待' (φ, 我) & 在' {等待' (φ, 我), 家}], 将来】

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

アル

～ガ

～トイウ時制ニ

この論理式は“等待' (φ, 我)”が「誰かが私を待つ」という意味を表し、“在' {等待' (φ, 我), 家}”が「それ(誰かが私を待つ)が家に存在する」という意味を表し、“在' [φ, 家, 等待' (φ, 我)]&在' {等待' (φ, 我), 家}”が「誰かが、家において、誰かが私を待ち、かつそれ(誰かが私を待つ)が家に存在するという様態にある」という意味を表し、“有' 【在' [φ, 家, 等待' (φ, 我)]&在' {等待' (φ, 我), 家}], 将来】”が「誰かが家において私を待っているが、[未来](ある日)という時制にある」という意を表している。次に挙げる(8)では、“假若”によって、[未来]における[進行]を構成している文について論じる。

(8) 当他每天一进办公厅的时候，他就先已把眉眼扯成像天王脚下踩着的小鬼，

狠狠的向每一个职员示威。坐下，他假装的看公文或报纸，而后忽然的跳起来，扑向一个职员去，看看职员正在干什么。假若那个职员是在写着一封私信，或看着一本书，马上不是记过，便是开除。(小説《四世同堂》730 頁)

ここでの“假若那个职员是在写着一封私信”(もしあの従業員が関係のない手紙を書き続けているならば)は出来事の仮定を表わす“假若”が生起しているの

そして、“在”【那个职员, 办公厅, 写’ (那个职员, 私信)&有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}&在’ [有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}, 办公厅】”が「あの従業員が、事務室において、あの従業員が手紙を書き続け、かつそれ(あの従業員が手紙を書き続ける)が事務室に存在するという状態にある」という意味を表し、“有”《在’【那个职员, 办公厅, 写’ (那个职员, 私信)&有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}&在’ [有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}, 办公厅】、将来》”が「あの従業員が事務室において手紙を書き続けているが、[未来]という時制にある」という意を表している。次の(9)における“你是在故意嘲笑她”は、この文の前方にある文脈と助動詞の“肯定”が示す意味によって、[未来]-[簡単]の時制を構築していると考えることができる。

(9) A: 二哥, 如果你找到素云, 想过怎么办呢?

B: 离婚, 这次我一定要和她离婚!

A: 既然要离婚的话, 还登什么寻人启示呢, 你让素云看到了会怎么想? 她肯定觉得, 你是在故意嘲笑她。(テレビドラマ《京华烟云》第37話)

(A: 「襟亚兄さん、もし素云が見つかったら、どうするつもりですか?」)

(B: 「離婚だ、今回は絶対にあいつと離婚するんだ!」)

(A: 「そう思うなら、お尋ね広告なんかをしてはだめよ、素云に見られたらどう思うかしら、間違いなく兄さんが故意に嘲笑していると思うわ。」)

この文では“你是在故意嘲笑她”の箇所について詳述する。そこで“在”に重点を置いて考察するために、“你是在故意嘲笑她”を“你在嘲笑她”という命題表現に置き換えて考察を進めることにする。まず、この文における時制について考えよう。“你在嘲笑她”は、前後の文脈と推量の意を示す助動詞“肯定”によって、[未来]の出来事であると判断することができる。それは、(9)の三行目から始まる“既然要离婚的话, 还登什么寻人启示呢, 你让素云看到了会怎么想? 她肯定觉得”の表現によって明らかとなる。というのも、ドラマ《京华烟云》によると、この(9)における場面は、発話者Bが、実家の悪事を擁護するが故に家出をした妻の“素云”が見つからず、頗る気をもんでいる所である。そこで旦那である発話者Aは、新聞に彼女の名前を記載して消息を得ようと提案したが、発話者Aの反駁を被ることになる。そのため、(9)のようなやりとりが行われることになり、“你在嘲笑她”は[未来]の出来事であると解することができる。

一方で、[未来]、つまり、“登寻人启示”が成された時を参照時間とすると、これと“你在嘲笑她”は同時に成立しているので、[簡単]の関係にあると見なしうる。

さて、次は動詞“嘲笑”について考える。この動詞は[持続]の性質を有しており、同時にこの文には“嘲笑”の[持続]を[終息]させる成分が存在していない。